

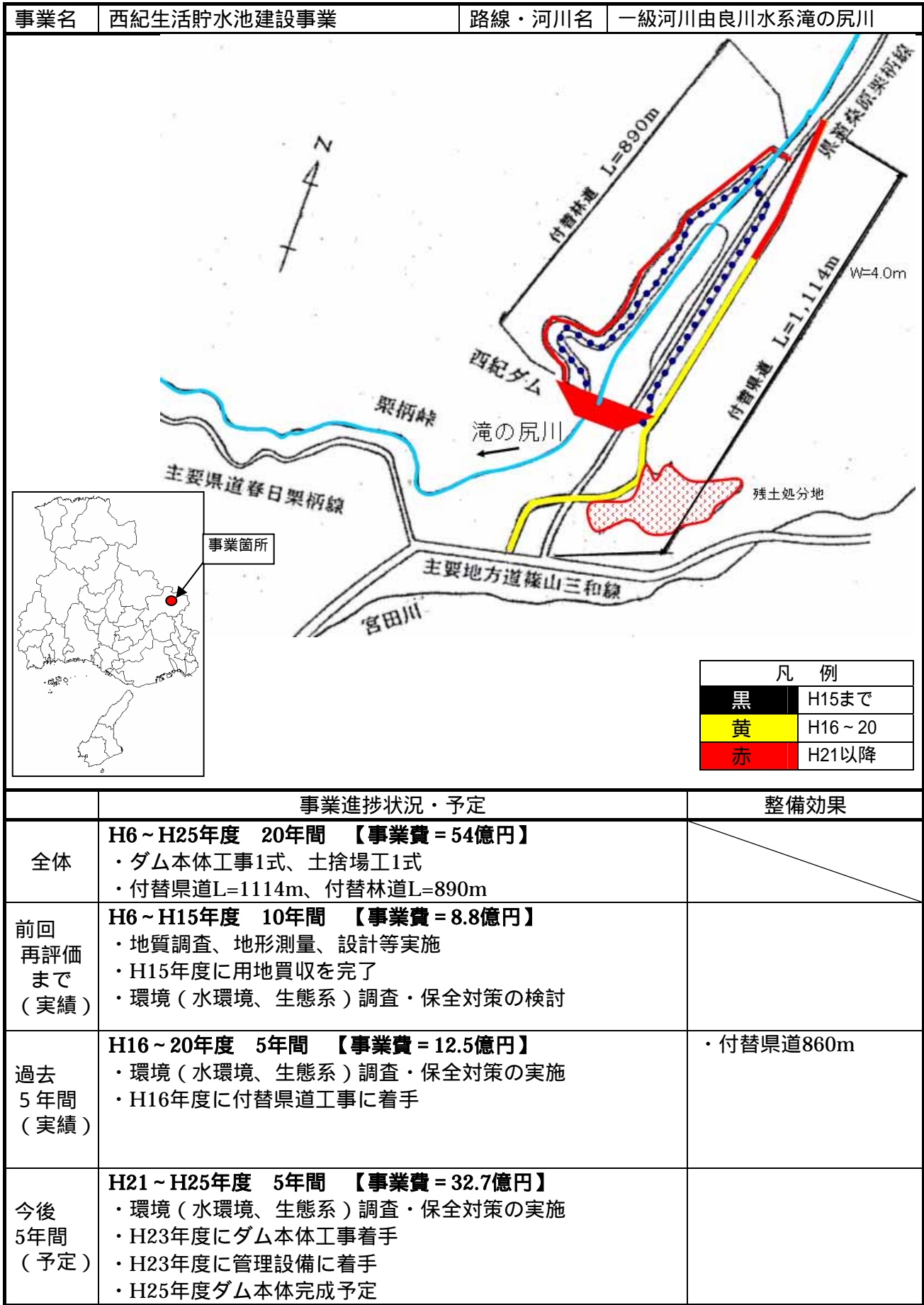
継続事業評価調書
【ダム事業】

土木局 河川整備課

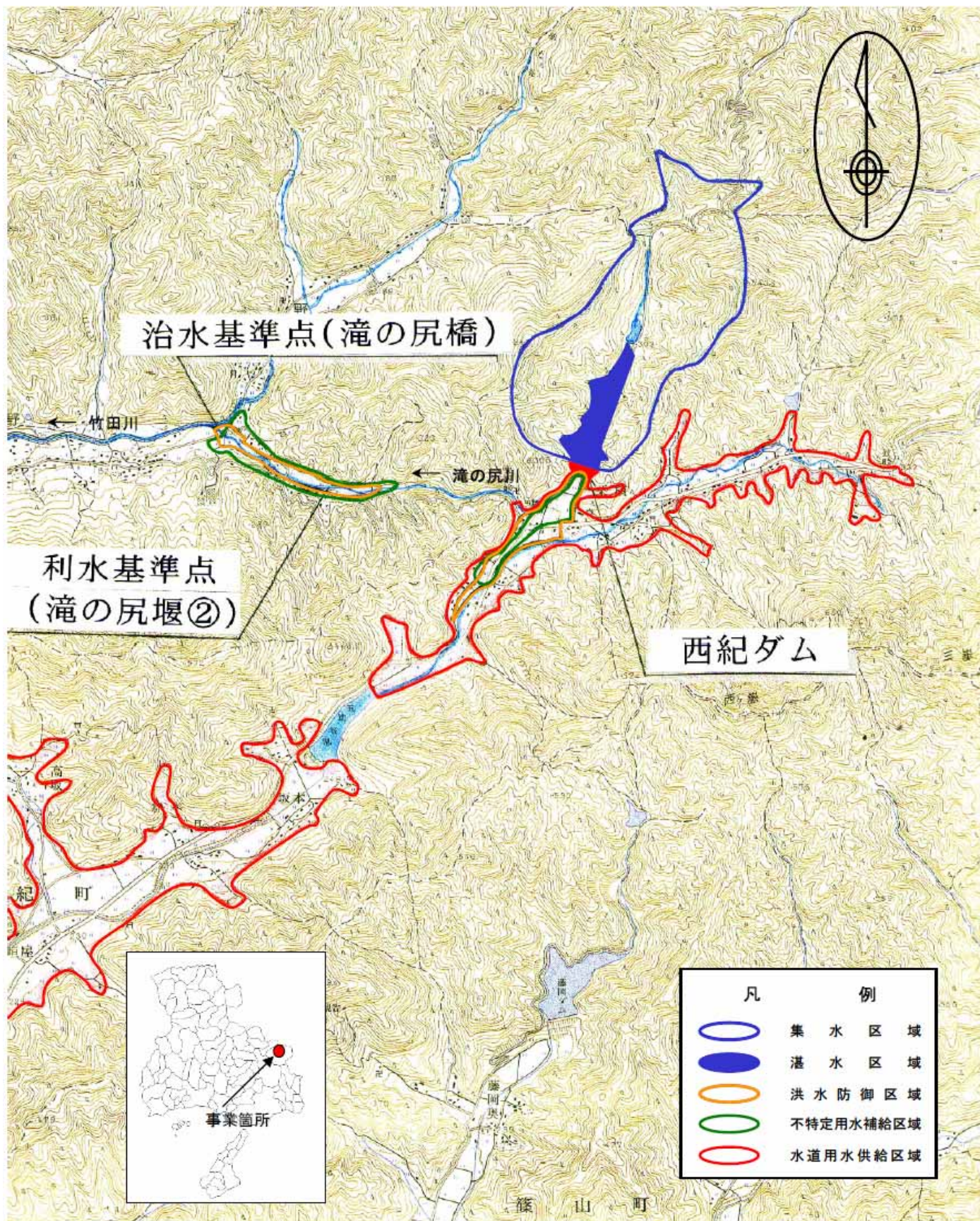
投資事業評価調書（継続：再評価〔第3回〕）

部課室名	県土整備部土木局 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課長 森脇康仁 (河川開発係長 樋口俊光)	内線	4408 (4433)	
事業種目	ダム事業	事業採択年度	H6		現計画	再評価時点
事業名	一級河川由良川水系 滝の尻川 西紀生活貯水池建設事業	着工年度	H6	総事業費	54億円	54億円
		再評価年度	H10(前々回) H15(前回)	内地補償費	14.2億円	15.3億円
事業区間	篠山市栗柄			完成予定年度	H25	H21
所在地	篠山市栗柄			進捗率 (内用補進捗率)	40%(84%)	18%(0%)
				残事業費	32.7億円	44.3億円
事業の目的				事業内容		
滝の尻川沿川の洪水被害を防除し、河川環境の保全等に必要な維持流量の確保及び既得取水の安定化を図るとともに、篠山市に対して新たに日量1,000m ³ の水道用水の取水を可能にする。				型式：重力式コンクリートダム ダム高：26.7m 堤体積：38.6km ³ 総貯水容量：383km ³ 治水安全度：1/30 (負担割合：治水 95.4%【国1/2,県1/2】 利水 4.6%【市】)		
事業を取り巻く 社会経済情勢等 の変化	<ul style="list-style-type: none"> 平成16年には、滝の尻川沿川で台風被害が発生したことから、西紀ダム建設促進の地元要望が高まっている。 平成16年災復旧・復興事業への重点配分の影響により、事業期間を延伸する。 					
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 平成6年度に事業採択後、これまで、地形測量・地質調査・環境調査等を進め、平成15年度には用地買収を完了した。 平成16年度から工事に着手し、付替道路工事については、全区間1114mのうち、ダムサイト下流工事起点～ダムサイト上流側860mの工事を完了した。 現在、付替道路等の工事進捗を図り、平成23年度からダム本体工事に着手し、平成25年度の完成を目指す。 					
評価視点	評価結果の説明					
(1)必要性	<ul style="list-style-type: none"> 滝の尻川は、昭和58年台風10号、平成2年台風19号、平成16年台風23号等の被害を受けており、抜本的な治水対策が必要である。 篠山市西紀中地区の水道水源は浅井戸やため池であり、下水道の普及及び舞鶴若狭道の開通、JR複線化などに伴う給水量の増加により、現有施設の給水能力を大きく上回る状況が続いており、安定水源を確保することが必要である。 					
(2)有効性・効率性	<ul style="list-style-type: none"> 費用便益比B/C = 1.75 ダム事業に対する地元協力体制など、事業執行環境は整っている。 篠山市は、調査等により他の水源を探したが見つからず、ダムによる水源開発が効率的であるとしている。 					
(3)環境適合性	<ul style="list-style-type: none"> ダム建設に伴う自然環境への影響を極力低減するため、動植物等の調査結果と学識経験者からの指導をもとに、環境保全対策を行いながら事業を進めている。 滝の尻川に生息・生育する動植物および河川の水質保全に必要な流量を確保し、流水の正常な機能の維持をはかる。 					
(4)優先性	<ul style="list-style-type: none"> 滝の尻川での治水安全度は低く、西紀ダムによる抜本的な治水対策が必要である。 篠山市は、平成25年度完成を目標に西紀中簡易水道事業の進捗を図っており、西紀生活貯水池建設事業の優先性は高い。 					
再評価の 結果	事業継続	左 の 理 由	上記の理由により、事業継続が妥当である。			

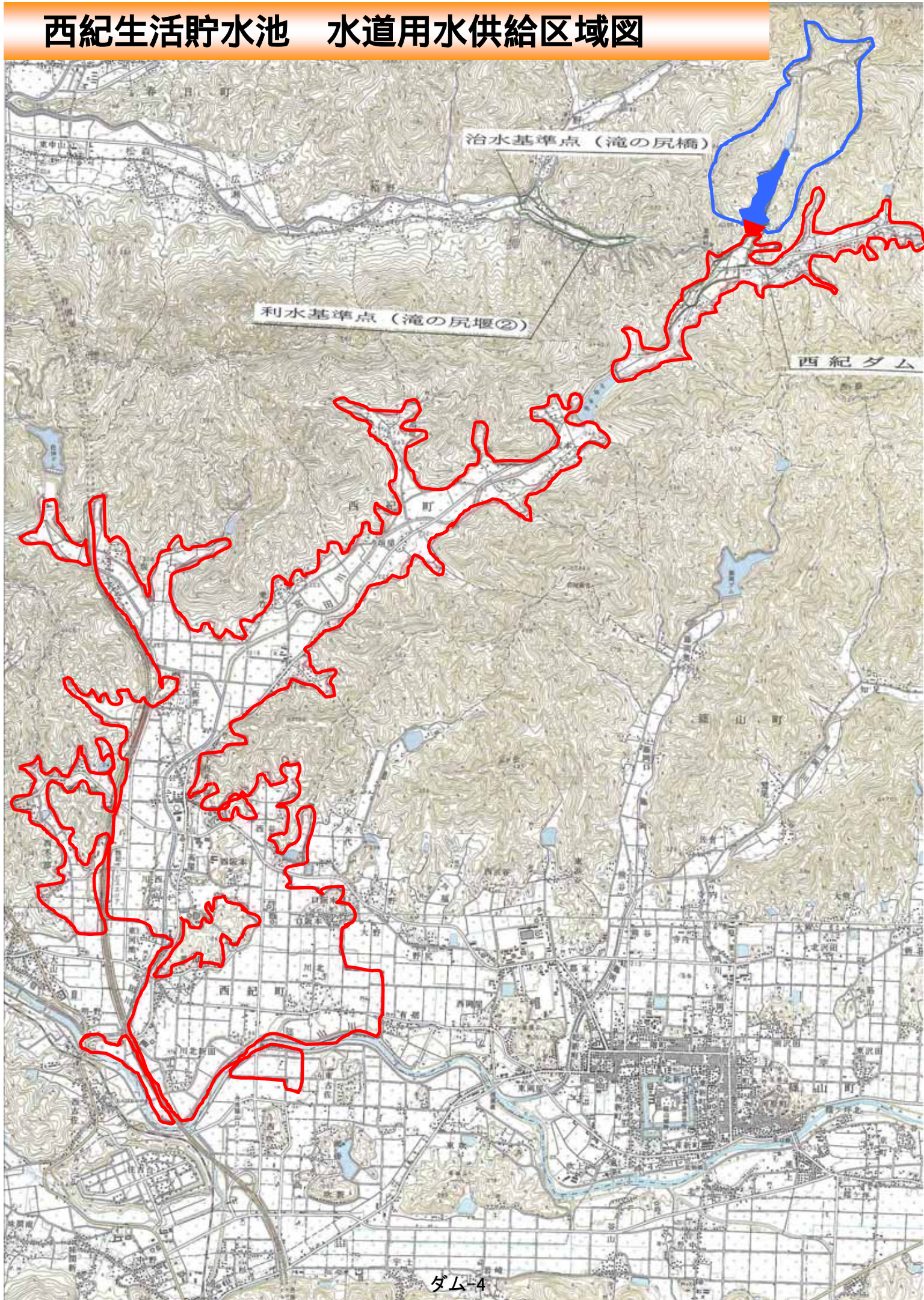
事業進捗状況概要図（継続：再評価〔第3回〕）



西紀生活貯水池 計画概要図



西紀生活貯水池 水道用水供給区域図



西紀生活貯水池 計画概要

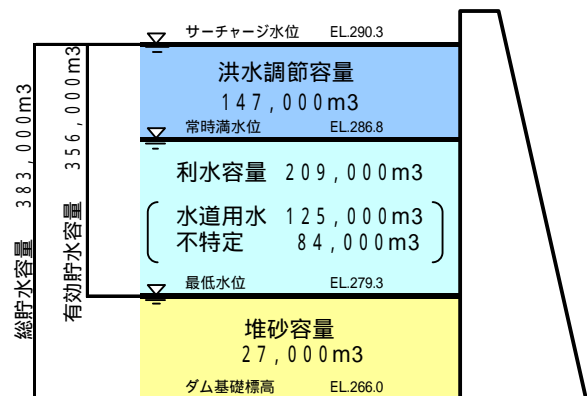
西紀ダム航空写真



下流面図



貯水池容量配分図



西紀生活貯水池 被害状況

昭和58年台風10号による被害状況



西紀町（現篠山市）栗柄



西紀町（現篠山市）栗柄

西紀生活貯水池建設事業スケジュール

	H15まで	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
測量・調査	■										
用地買収等	■										
環境調査	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
付替県道工事		■	■	■	■	■	■	■			
ダム本体工事					■	■	■	■	■	■	■
管理設備工事					■	■	■	■	■	■	■

<凡例>	
■	当初計画
■	実施計画

西紀生活貯水池建設事業の費用便益比

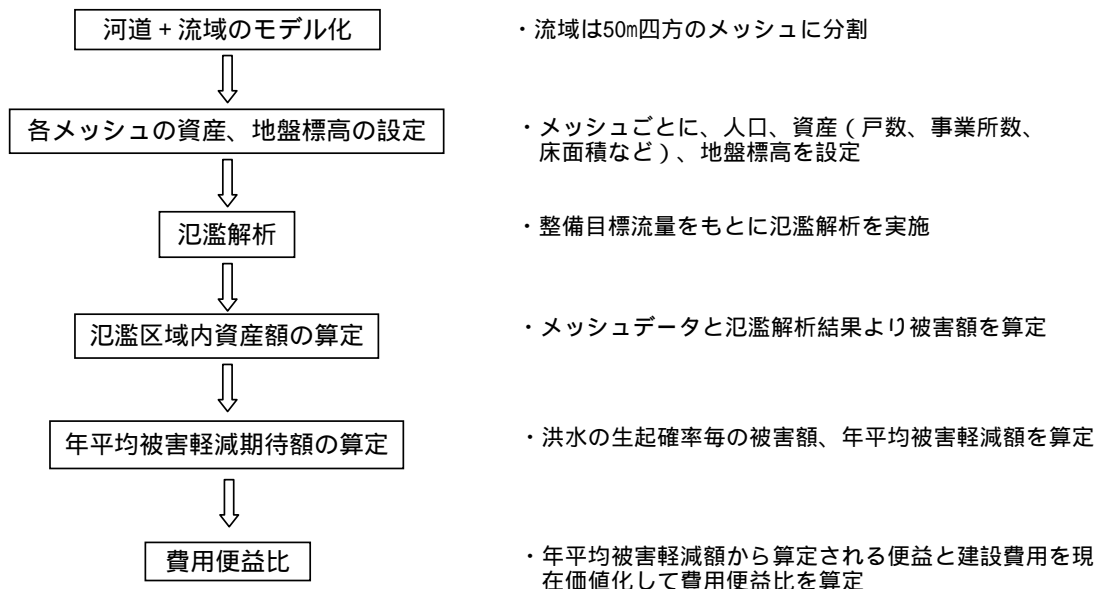
(1) 費用便益比の考え方

- 1) 便益 = 治水事業を実施することによる被害軽減期待額を現在価値化
 被害額 = 一般資産被害 (家屋、家庭用品、事業所償却資産、農漁家償却資産等)
 + 農産物被害 + 公共土木施設等被害 + 営業停止被害 + 応急対策費用 + 残存価値
- 2) 費用 = 「建設費 + 維持管理費」を現在価値化

(2) 算定に用いた資料

治水経済調査マニュアル(案) 国土交通省河川局 平成20年2月

(3) 便益(B)の算出方法



(4) 費用便益(B/C)

便益(B)		費用(C)			B / C
総便益 (百万円)	代表的な効果	総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)	
8,356.0	確率規模1/30の降雨に対して 浸水面積11.3ha軽減 浸水戸数14戸解消	4,766.0	4,604.0	162.0	1.75